

Q&A

貧血精査のカプセル内視鏡で発見された小腸腫瘍

【問題】

症例：60歳代，女性。

主訴：なし（貧血の精査）。

既往歴：32歳時に子宮体癌手術，56歳でANCA関連腎炎。

家族歴・生活歴：特記事項なし。

現病歴：ANCA関連慢性腎不全に対し1年前に透析導入された。貧血と便潜血反応陽性を認め、上部消化管内視鏡では異常なく、下部消化管内視鏡は癒着のためS状結腸までの観察で異常を認めず、精査目的で当科紹介となった。

現症：身長153.2cm，体重45kg，血圧

126/50mmHg，貧血あり，腹部所見異常なし。

血液検査所見：WBC 7000/ μ l，RBC 295×10^4 / μ l，Hb 8.2g/dl，Plt 24.2×10^4 / μ l，Cre 9.14mg/dl，BUN 148.3mg/dl，T.Bil 0.2mg/dl，LDH 187U/l，AST 12IU/l，ALT 8IU/l，Alb 4.0g/dl，CRP 0.1mg/dl，CEA 1.7ng/ml，CA19-9 36U/ml。

大腸カプセル内視鏡（Figure 1），ダブルバルーン内視鏡（Figure 2），選択的小腸造影（Figure 3）を示す。

診断は？



Figure 1. 大腸カプセル内視鏡：回腸に病変を指摘した。

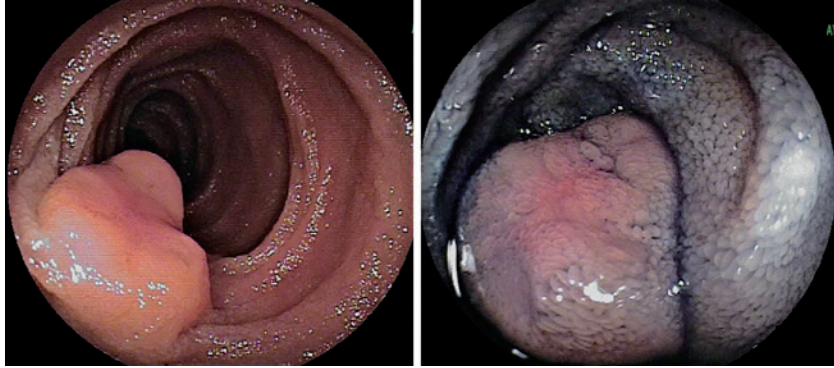


Figure 2. 経肛門的ダブルバルーン内視鏡：回盲弁より約100cmの白色光とインジゴカルミン散布像.

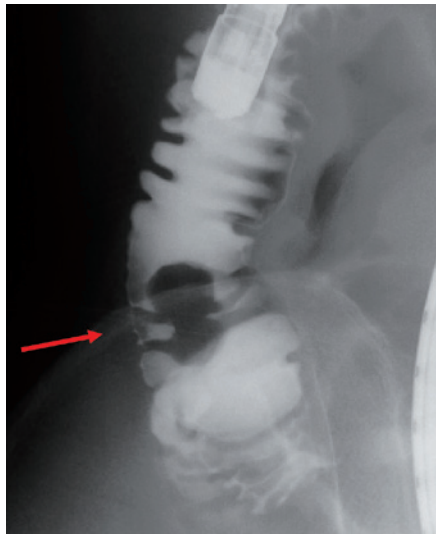


Figure 3. 選択的小腸造影：ダブルバルーン内視鏡施行時のガストログラフィン®による造影.